ニコン 本社 / イノベーションセンター　NIKON Global Headquarters / Innovation Center

三菱地所設計 Mitsubishi Jisho Design

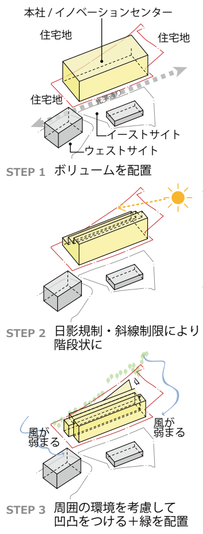


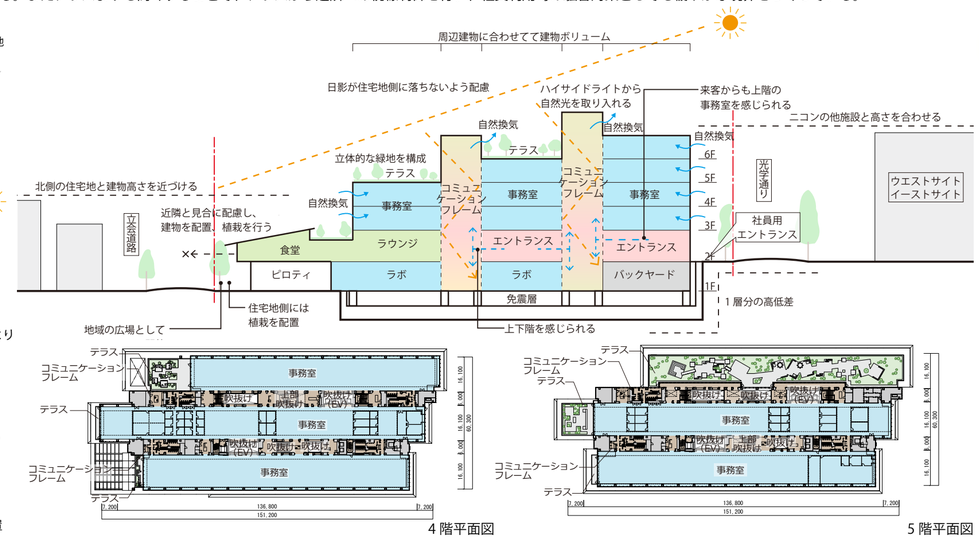
物件名称	本社 / イノベーションセンター	階　　数	地下 0 階，地上 6 階，塔屋 1 階
所 在 地	東京都品川区西大井 1-5-20	構　　造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
主要用途	事務所 敷地面積 18,063.61 ㎡	設計監理	㈱三菱地所設計
建築面積	11,369.96 ㎡	施　　工	㈱安藤・間
延床面積	42,423.98 ㎡	竣　　工	2024 年 5 月



帯状の平面がずれながら積層するオフィス

周辺への日影や風環境の影響を考察し、整形な平面ではなく、帯状にずれた平面をセットバックしながら積層する構成とした。
それにより周辺の住環境への配慮とともに、公園や緑道と連続する豊かな広場空間や屋上テラスによる立体的な外部空間を生み出した。事務室とラボはコミュニケーションフレーム内の吹抜けでつながり、異なる部門間の交流を促進しシナジー創出を図っている。コミュニケーションフレームはハイサイドライトや自然換気装置として、快適なワークプレイスをつくる環境装置としても機能している。またテラスよりも高くすることで、テラスから近隣への視線制御を行い、社員利用時の騒音対策としても緩やかな境界をつくっている。



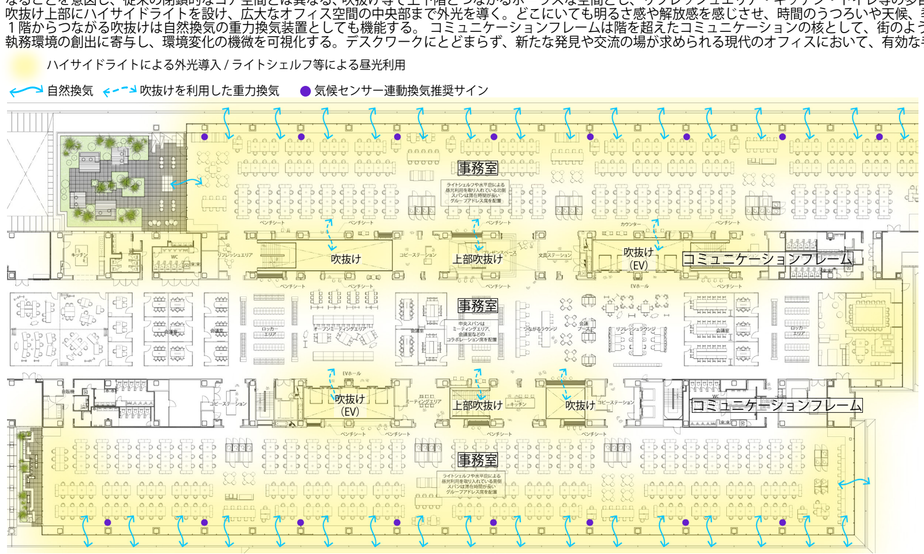


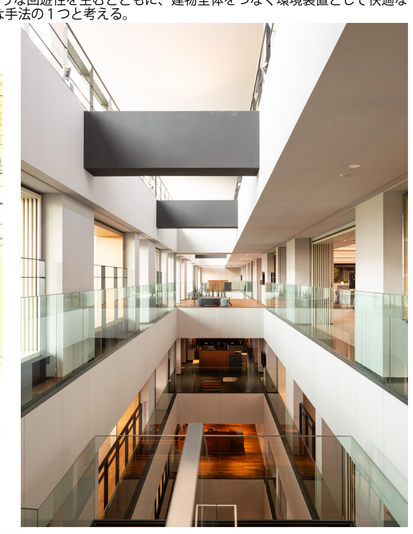
4 階平面図

5 階平面図

人と環境をつなぐコミュニケーションフレーム

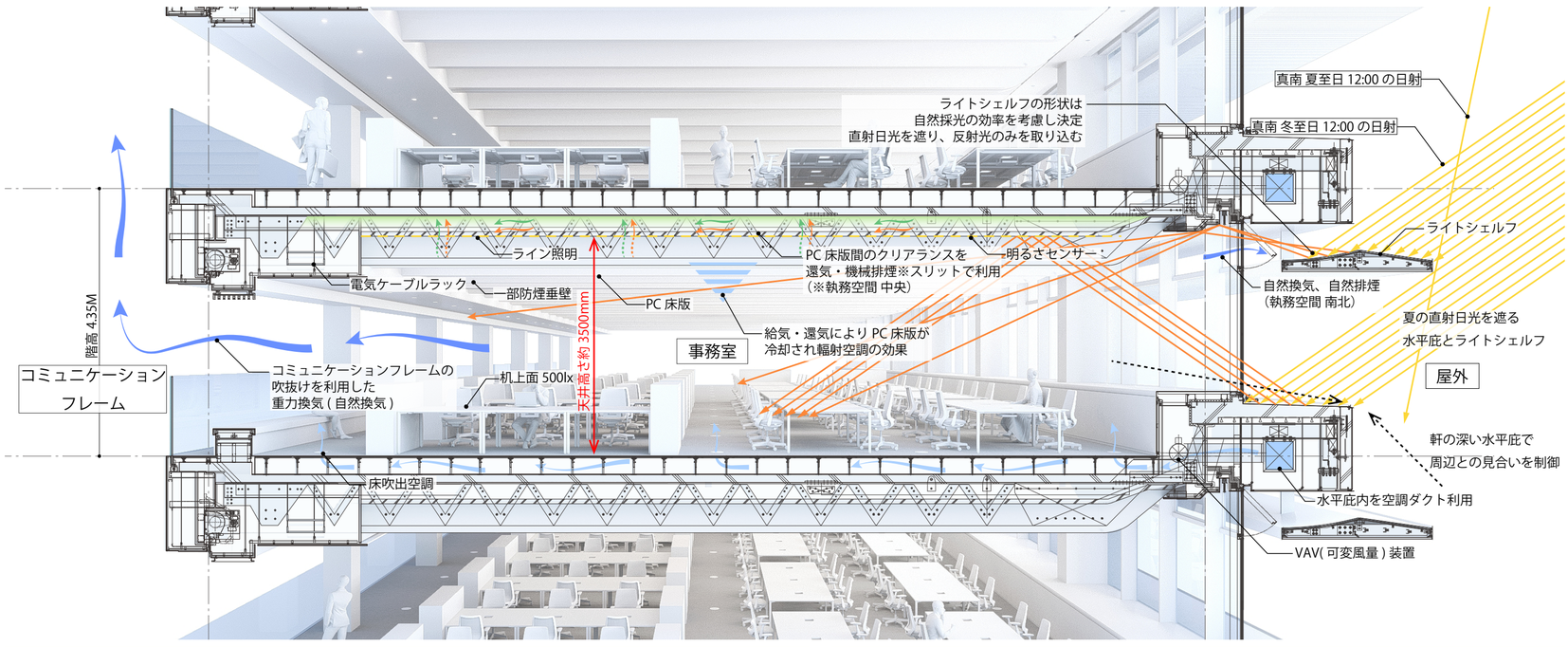
約 3000 人が働き、将来の多様な働き方の変化を受容するオフィスとして、広大でフレキシブルな事務室の確保と人のつながりを両立する、新たなオフィスのあり方を提案した。 広大なオフィスは平面的な距離や階による分断が生じる懸念があり、それを解消し部門を超えた交流を促す仕掛けとして、整形な事務室で新たなコア空間「コミュニケーションフレーム」を挟む平面構成とした。 コミュニケーションフレームは偶発的な交流の場となることを意図し、従来の閉鎖的なコア空間とは異なる、吹抜け等で上下階とつながるボーラスな空間とし、リフレッシュエリア・キッチン・トイレ等の多目的な空間が連なる。
吹抜け上部にハイサイドライトを設け、広大なオフィス空間の中央部まで外光を導く。どこにいても明るさ感や解放感を感じさせ、時間のうつろいや天候、季節の変化をやわらかく映し出す。
1 階からつながる吹抜けは自然換気の重力換気装置としても機能する。 コミュニケーションフレームは階を超えたコミュニケーションの核として、街のような回遊性を生むとともに、建物全体をつなぐ環境装置として快適な執務環境の創出に寄与し、環境変化の機微を可視化する。デスクワークにとどまらず、新たな発見や交流の場が求められる現代のオフィスにおいて、有効な手法の 1 つと考える。

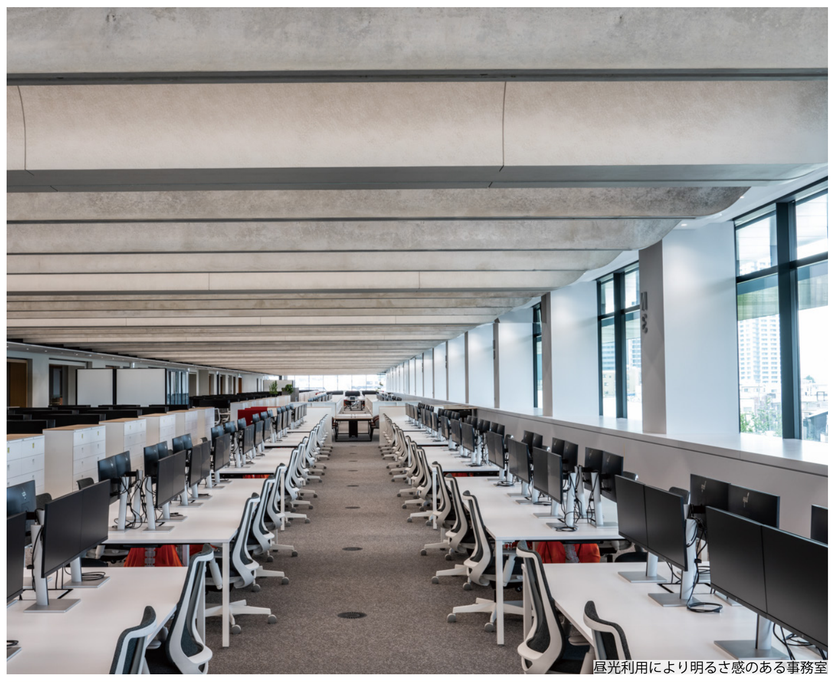




デザインと機能が統合された空間

ニコンの「デザインと機能が統合された製品やサービス」を想起させるべく、建築においても空間と機能の統合を意図した。
内外装の特徴的なデザインである PC 床版や水平庇は、構造、設備スペースとしても機能しており、階高 4,350mm で天井高さ 3,500mm を実現。意匠性とともに快適性を高めた空間となっている。

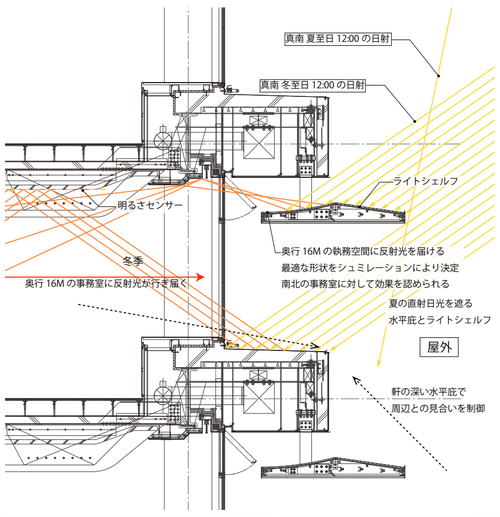


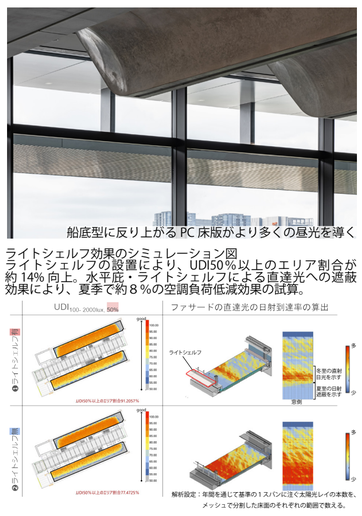


昼光利用により明るさ感のある事務室

シミュレーションにより最適化された日射遮蔽と昼光利用

外装の特徴である水平庇とライトシェルフにより、日射遮蔽と昼光利用を行っている。PC 床版の窓側端部を舟底型に持ち上げることで、より多くの反射光を取込む形状とした。16m 奥行の事務室に反射光が広がり、明るく快適な執務空間となっている。
パッシブな手法を用いることで、建物全体で ZEB Ready を達成した。

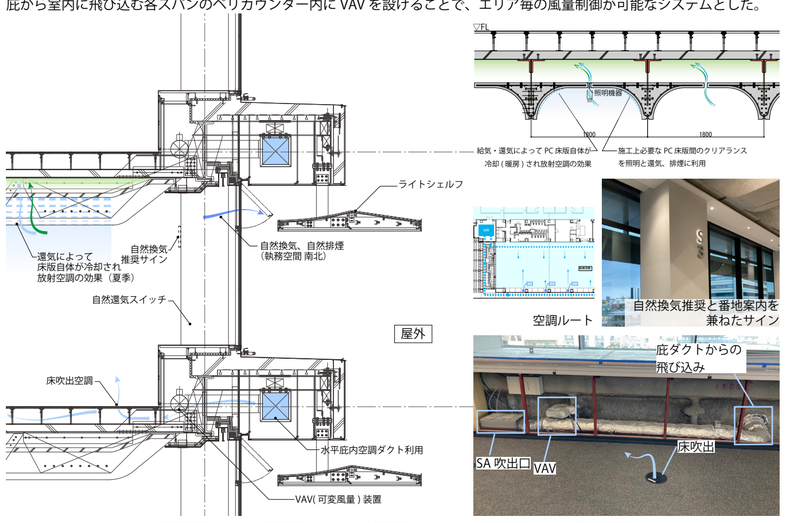




ライトシェルフ効果のシミュレーション図
ライトシェルフの設置により、UDI50％以上のエリア割合が約 14% 向上。水平庇・ライトシェルフによる直達光への遮蔽効果により、夏季で約 8 %の空調負荷低減効果の試算。

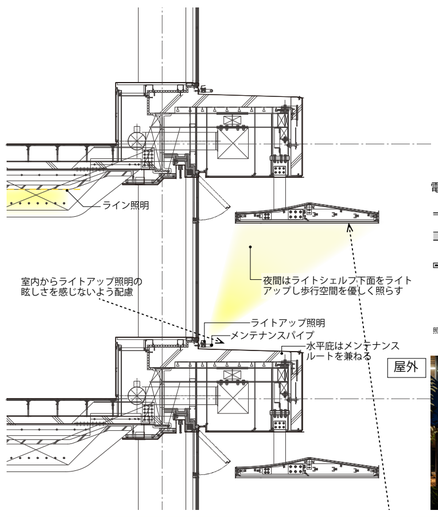
メンテナンス性も配慮したダクトレスな空調、換気、排煙計画

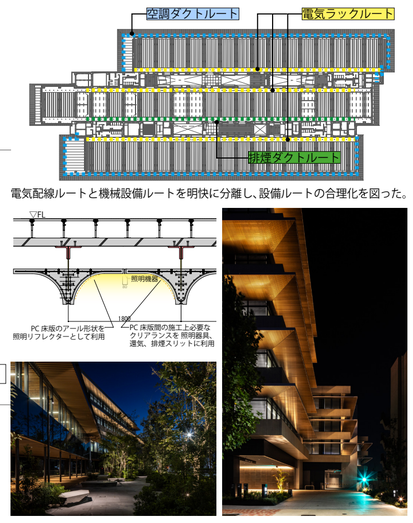
日射遮蔽を最大限確保することで生まれた庇内部の空間をダクトルートとして活用した床吹出空調方式を採用した。
これにより、建物内でのダクト展開を大幅に削減し、PC 現し天井による象徴的かつ意匠的なオフィス空間を実現した。
従来、床吹出空調は床下全体を加圧する空調方式のため、エリアごとの風量制御が難しいという課題があったが、
庇から室内に飛び込む各スパンのペリカウンター内に VAV を設けることで、エリア毎の風量制御が可能なシステムとした。



施工上のクリアランスを活用した照明計画

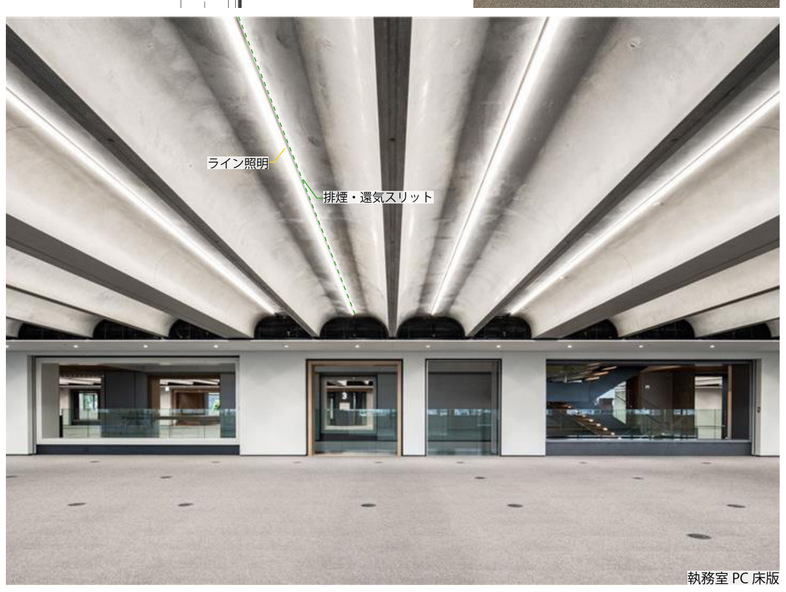
事務室の照明は PC 床版の施工上必要なクリアランスに設置することで、PC 床版のアール形状が照明のリフレクターとなり、
アンビエント照度を抑えつつも、明るさ感のある執務空間を実現している。
ライトシェルフはライトアップ照明により、地域を優しく照らす光となっている。





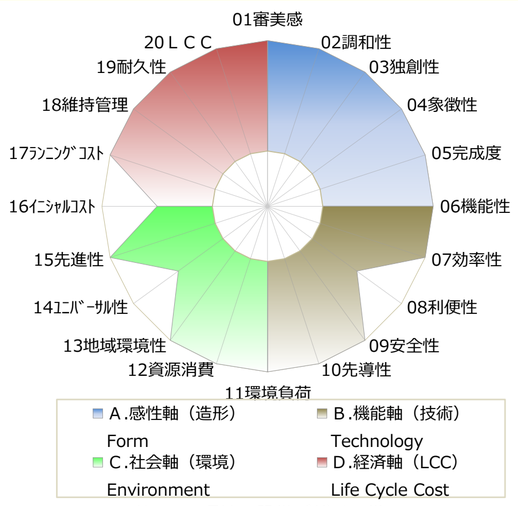


水平庇とライトシェルフがつくる陰影のあるファサード



執務室 PC 床版

環境・設備デザインのレーダーチャート





竣工時に建物全体で ZEB Ready(0.48) を取得
40,000 ㎡超えの竣工済事務所で建物全体で
ZEB Ready を達成した事例は 9 例目

第 24 回環境・設備デザイン賞　Environmental and Equipment Design Award 2025